

ガンバル 中小企業

ハマダの土壌洗浄装置と
開発メンバーら―姫路市
網干区浜田

土壌浄化 狭小地もOK

プラント建設工事のハマダ(姫路市)が自社開発の土壌洗浄装置を使い、土地の汚染診断や浄化などの事業を始めた。浄化後の土地売却まで扱うワンストップサービスが特色。装置が小型で、大型機械が入れない小さな土地も浄化できるため「ガソリンスタンドや中小工場の跡地など、大手の入り込めない分野で受注を広げたい」と意気込んでいる。(阿部江利)

汚染土を装置内に取り込み、高圧水で洗う。通常の洗浄機は水の中に土をひたす「つけ置き洗い」だが、同社の洗浄機は50倍の高圧で水と土を混ぜ「こすり洗い」するので洗浄スペースが少なく済み、小型にできた。もともと、本業に使う

姫路・ハマダ

セメント除去向けに開発を始めた。ゴミや重金属類、油類の汚れも除去できる。油分を最大で98%除去できることが実証済みで、特許も出願中。土壌の汚染度を測定した後、土の入れ替えと洗浄のどちらが効率的かを

小型装置 売却まで一貫サポート

見積もり、施工する。浄化は1立方メートル1万4千円から。宅地建物取引業の資格を取得しており、浄化した土地の活用も相談にも応じる。

同社は、2004年から新産業創造研究機構や神戸大学などの支援を受け、姫路市内の水処理業者と連携して装置開発を進めてきた。愛知などの工場跡地で試験的に土壌洗浄した実績があり、当面は処理の受託を事業の中心にするが、浄化装置の販売なども検討中。

帽田八郎会長(67)は「工場跡地や河川のヘドロなど、ニーズは多いはず」と期待する。同社079・272・1081

